



## 日本物理学会のこの1年： 財政改革と「行動の時」

2005年は、物理分野にとって記念の年であると同時に、「科学技術基本計画」、「男女共同参画基本計画」の2つの基本計画が策定される節目の年でもある。本委員会では、2つの基本計画で女性科学者・技術者の育成、登用、環境改善が推進されるよう、男女共同参画学協会連絡会と連携して提言や省庁への要請活動を行うとともに、応用物理学会と協力して物理分野における国際協力(Women in Physics)を強化した。さらに女子高校生の理工系進学促進に向けた新しい取組を展開した。

2002年5月に発足した男女共同参画推進委員会は3期目に入り、2004年9月に委員長を坂東昌子から鳥養映子に引継いだ。前身のパリ会議準備委員会(2001年5月発足、北原和夫委員長)から数えると4年半の活動実績となる。昨9月に、委員12名(男女6名ずつ)中9名が交替し、22名のネットコメンテータ(ネット上で情報を共有し、意見交換や活動に参加する委員)とともに、事務局の協力のもとに活動を進めている。

本学会の女性会員比率は僅か4%。入門(大学、大学院への入進学)、就職(ポストドクから常勤職へ)、昇進(教授、管理職へ)の3つの段階で、あたかも女性の進出を阻む壁があるかのように女性比率が低下して行く。これらの壁の内因・外因をつきとめ、どう解決すべきか? 昨年9月の新体制の発足にあたり、本委員会が取組むべき課題について意見交換を行ったところ、育児支援、ポストドク問題、研究助成制度、メンター制度、リーダー養成、物理好き少女育成など、優先とする課題はそれぞれに異なっても、多くの委員が、「議論を重ねるより行動すべき時」という思いを強く抱いていることがわかった。

一方、日本物理学会理事会は、財政状態を改善するため、2005年予算から大きな財政改革に踏みきった。委員会開催も半減せざるを得ない予算の中で、研究活動に、組織運営に、育児にと超多忙な委員達とともに、どうやって行動を起すのか・・・これが新委員会の直面した大きな課題であった。

そのひとつの解は、提言や省庁への要請など、学協会連絡会や他学会と協力できる活動は協調して行うことであった。さらに、国際物理年にちなんだ国際協力や、理工系進学促進等の新事業を展開するため、競争資金への応募や、協力機関の掘り起こしに力を注いだ。この1年間に委員会が関わった活動は次の通り。

1. 日本物理学会シンポジウム「男女共同参画:科学技術基本計画策定の機会に」: (2005年3月、東京理科大学)。企画:井上順一郎、肥山詠美子。講演:近藤高志、登谷美穂子、黒田玲子、家泰弘、鳥養、笹尾真実子、潮田資勝。参加者約40名。科学技術基本計画策定の背景、経緯、要点を学び、学協会連絡会アンケート調査でわかった問題点を共有し、具体的問題としてポストドクへの「科研費申請枠の拡大」について、問題解決にむけた意見交換を行った。

2. 国際協力の推進: 国際会議、集会において話題提供、招待講演等を行い、統計調査に基づく日本の活動を紹介すると共に、問題解決への道を探った。特にアジアとの連携を深めた。

- (1) Asia Pacific Physics Conference (Oct. 2004, Hanoi) 円卓会議 Women in Physics, 企画・座長:福山秀敏, 話題提供:鳥養 “Progress Report of Efforts for Gender Equality in Japan”. 参加者約70名。
- (2) Physics for Tomorrow in Asia-Summit of Physical Societies at Pan Pacific Region-Launch Conference of the International Year of Physics in Asia (Jan. 2005, KaoShiung) 円卓会議 Women in Physics, 話題提供: 田島節子 “Problems for Women Physicists in Japan”. 12か国から20人余(各国会長ら)。
- (3) Judy Franz(IUPAP 事務局長)を囲む会 (Apr. 2005, 六本木) 企画:坂東, 村尾美緒。参加者約30名。
- (4) IUPAP International Conference on Women in Physics (May 2005, Lio) 安居院あかね, 谷田聖, 鳥養。応用物理学会小館香椎子先生をリーダーに、両学会から6名(男女各3名)の代表団が参加。円卓会議 Research Funding and Women in Physics 招待講演, ポスター発表, グループディスカッションを行い、「統計調査」「男女ともに共同参画推進に取組む」日本を印象づけた。42か国から約150名が参加。
- (5) Second Joint Meeting of the Nuclear Physics Divisions of the APS and JPS (Sep. 2005, Hawaii) 円卓会議 Women in Physics 話題提供: 肥山。

3. 女子高校生の理工系進学促進事業「女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ」

(2005年8月, 国立女性教育会館)。同会館, 科学技術振興機構の組織的支援のもと, 日本学術会議, 本学協会連絡会らと新企画を立上げた。参加者64名。企画運営:平野琢也, 田島, 伊藤厚子, 鳥養。

4. その他

- (1) 男女共同参画学協会連絡会アンケート報告書英訳版作成:平野他18名, 新委員会が総力で取組んだ最初の事業であった。 <http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/2003enquete/PDF/EPMEWSEreport.pdf>。
- (2) ウェブフォーラムの開設:安居院。ネット上の情報・意見交換を活性化するために試験運用中。非公開。
- (3) 同上2周年記念シンポジウム報告書作成:伊東恭子他。
- (4) 競争資金応募結果:学術振興会, 井上財団から, 国際研究集会派遣(各1名)助成を頂いた。科研費, 日米センターへの大型助成申請は不採択。

付記:坂東昌子前委員長が第62期会長(平成18年9月～平成19年8月)に選出された。(文責:鳥養)